令和８年度(2026 年度) BRIDGE 構築事業「教科等横断」推進プロジェクト　伴走支援充実事業

第３回オンライン講習レポート

令和８年８月28日（金）に、BRIDGE構築事業「教科等横断」推進プロジェクトにおける「伴走支援充実事業」第３回オンライン講習を実施しました。当日は各道立高等学校等から281名の先生方が参加しました。

１　伴走支援充実事業の趣旨

総合的な探究の時間の目標を実現するためには、生徒が主体的に学習活動を続け、自らの学びを振り返りながら、活動の質を上げることが大切であり、その際、教員が適宜、生徒に指導や支援をして、生徒の探究活動に関わることが求められています。そのため、道教委では、教員が生徒の探究活動を伴走支援する際に必要な資質能力の向上に資することを目的に、大学教員等を講師とした講習を開催しています。

２　伴走支援充実事業　第３回オンライン講習の概要

〇テーマ　「生成 AI と探究」

〇講　師　新潟大学教育基盤機構　准教授　斎　藤　有　吾　氏

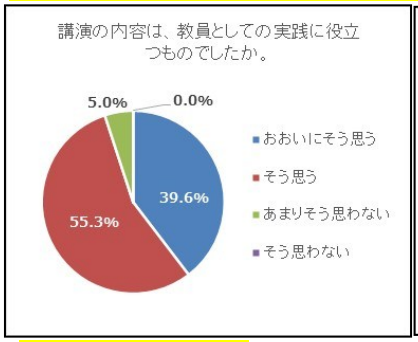
〇講　義

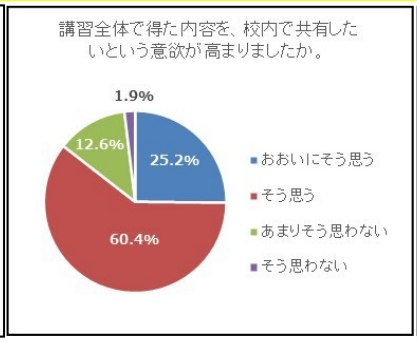
生徒が日常的に生成 AI を使用するなか、教育に携わる者が考えるべきことは、「AI を許可するかどうか」ではなく、「何を生徒の学びとして残すか」ということであるとの説明がありました。また、生成 AI が調査・分析・文章化・資料作成まで行うことのできる時代だからこそ、探究活動において生徒に身に付けさせたい力は何かを明確にした上で、基本的には、作業は生成 AI に任せ、判断は生徒にさせることが重要であるとのお話がありました。

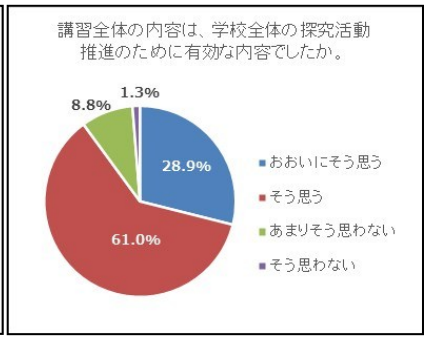
〇演　習　「カスタム生成 AI の自校における活用可能性を考える」

対話型論証モデル（論証の型だけではなく、自己・社会・学問をつないで自分の立場を形成するための思考モデル）に基づくカスタム生成 AI の作成方法及び活用方法を学びました。

３　参加者アンケート結果（一部項目のみ、令和８年８月 31 日現在、回答数 159 人）







☆参加者の感想☆

- 生徒に身に付けさせたい力を軸に、生成 AI を活用する場面やタイミングについて考えることができた。
- 生成 AI に任せる部分と生徒自身が考えるべき部分を整理し、探究活動における生成 AI の適切な役割について考えることができた。
- 生徒の学びを中心に据えつつ、生成 AI との適切な役割分担や活用の在り方について教職員間で共有したいと思った。
- 生成 AI を、生徒の探究活動を支援する「伴走者」として活用できる可能性を理解した。

【オンデマンド講習】

当日の講義をオンデマンド講習としてアップロードしています。オンデマンド講習は Plant に登録する研修の対象としていますので、オンデマンド講習の受講を希望する場合は、研修コード（「2026 教高 10」）から Plant 上で検索して申し込んでください。

「Plant」
二次元コード